

論文審査の要旨及び担当者

No.1

報告番号	甲 乙 第 号	氏 名	藤澤 忠盛
論文審査担当者	主査:	政策・メディア研究科委員 兼政策・メディア研究科 教授	小林 博人
	副査:	政策・メディア研究科委員 兼政策・メディア研究科 教授	蟹江 憲史
	副査:	政策・メディア研究科委員 兼政策・メディア研究科 教授	ショウ ラジブ
	副査:	カンボジアノートン大学 建築学科 教授	ソソクンテリー
学力確認担当者			
藤澤忠盛君の学位請求論文は“Formation of Living and Cultural Spheres in the City Center of Phnom Penh”と題するもので、カンボジア王国首都プノンペンにおける、市民の生活文化に根ざした都市空間の場所性をテーマに、仏教寺院との関係を中心にその地域特性を明らかにし、将来的にプノンペンにおける歴史的保存やその継承をされることが望まれる地域を明示するものである。 カンボジアを含む東南アジア各国は欧米の植民地になっていた背景があり、各国の歴史や文化を残しながらも植民地支配された国の文化を吸収し独自の文化を形成してきた。プノンペンの歴史的保存の求められる領域を顕在化させ保存・継承することは、これまでの歴史を踏まえ、東南アジアを中心とした成長する仏教国の都市発展に有効かつ必要である。近年、カンボジアは人口増加と経済発展を遂げており、その結果、都市景観の悪化、歴史的建造物の破壊、地域性・風土性の損失等の問題が発生している。 本研究では、開発が進むプノンペン中心市街地及び郊外エリアの「開発されているエリア」と「開発されていないエリア」における都市変遷、都市施設の機能と人々の日常行動との関係を調査し、プノンペン中心市街地における仏教に根ざした生活文化圏を顕在化することを目的とした。 研究の基礎としての都市空間全体の変遷を把握するため、中心市街地の大きな地域特性と郊外に広がる開発地区の大型開発やアーバンスプロールといった大きなスケールの変化の動向を理解した。また、現存するフランスの影響を受けたコロニアル建築や現地で展開されたニュー・クメール建築といった歴史的建築物の現状を把握した。その上で、フィールドワークに基づき、仏教国として特に生活の中心となっている仏教寺院の都市機能を明らかにし、それに加え、地域住民の日常生活を支えているマーケットとショップハウスおよび寺院を中心とした人々の行動と交流のあり方を示し、人的交流が都市空間の様相に与える影響を分析した。			

論文審査の要旨及び担当者

No.2

その結果、トンレサップ川流域のフランス植民地時代から繁栄している歴史的建築物の多く存在する領域と、都市の拡大に伴って発展した近代の建築群を有する領域の双方における生活文化圏を明らかにすることができ、プノンペンの中心市街地における歴史的保存地区として指定されるに値する特定の領域を顕在化させ研究成果とした。

本研究は、今まで明らかにされてこなかったカンボジア・プノンペンの都市の歴史と生活文化に根ざした地域性を顕在化し、アジアの都市における新たな都市の将来に向けた知見を提供することができた点でユニークかつ意義のある成果を示したものと考えらる。よって学位審査委員会は、本論文の著者藤澤忠盛君が博士（政策・メディア）の学位を受ける資格があるものと認める。